

第5回 品質は工程内で造りこむ「工程内品質保証」の進め方

日時 平成31年2月19日(火) 9:30~16:30

会場 テクノサポート岡山 研修室

対象 品質管理を初めて学ぶ製造部門の方、品質管理部門の方

定員 30名

参加費 3,000円(税抜き) / 名

研修のねらい

最終検査に依存した品質保証から脱却し、各工程内で不良の発生・流出を確実に抑えるための考え方や手法を学び、これを自社の品質保証体制の向上につなげていきます。

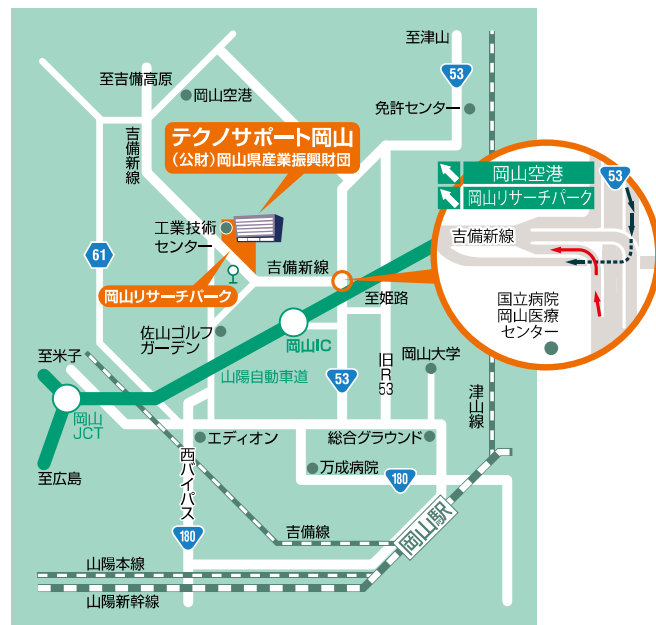
概要

不良の発生・流出リスクと検査コストを抑制していくためには、各工程内で品質保証を完結させることが不可欠です。各工程の品質リスクが無くなれば、不良の発生・流出が無くなり、最終検査も実質不要と考えることができます。

トヨタ生産方式(TPS:Toyota Production System)から生まれた自工程完結の考え方では、工程内における品質保証の網(QA Network)を確立するための3要件(設計要件、製造技術要件、製造要件)を作業手順の中に組み込んでいきます。

カリキュラム

- 品質保証の考え方
 - 品質保証の重要性
 - 工程内品質保証の考え方 (トヨタ生産方式と自工程完結)
 - QAネットワーク
- 段階別の工程内品質保証
 - 製造準備段階
 - 初期流動段階
 - 量産段階
- 工程内品質保証のさらなる向上
 - 源流管理と根本対策
 - 変化点管理
 - ポカミス対策
 - 基本ルールの順守・徹底
 - 異常処置の確実化
 - 組織風土改善と人材育成
- 演習[QAネットワークの作成]



〒701-1221 岡山市北区芳賀5301(テクノサポート岡山)
 公益財団法人 岡山県産業振興財団
 ものづくり支援部 研究開発支援課
TEL.086-286-9651 FAX.086-286-9676
【受付時間】8:30~17:15(土・日・祝日を除く)
E-MAIL sangaku@optic.or.jp
http://www.optic.or.jp/

- バスでお越しの方
岡山駅発芳賀佐山団地・リサーチパーク線(中鉄バス)で約40分
岡山駅バスターミナル6番乗り場→工業技術センター下車
- 車でお越しの方
岡山駅から約25分 岡山ICから約7分 岡山空港から約10分
無料駐車場完備

人と企業を大切に! 頑張る中小企業の応援団
 公益財団法人
岡山県産業振興財団



岡山県

自動車関連企業

工場管理人材等育成研修ガイド



管理者の飛躍、それは会社の飛躍!



全5回
定員各30名

研修コース全日程 会場/テクノサポート岡山 研修室 参加費/各回一人3,000円(税抜き)

回	コース名	開催日時	応募締切
第1回	現場力向上による自社の競争力強化の進め方	平成30年10月17日(水) 9:30~16:30	平成30年10月10日(水)
第2回	製造業に携わる管理者のための「原価意識向上」の進め方	平成30年11月7日(水) 9:30~16:30	平成30年10月31日(水)
第3回	製品原価を低減する簡易自動化の進め方	平成30年12月17日(月) 9:30~16:30	平成30年12月10日(月)
第4回	購買・外注管理実務の進め方	平成31年1月28日(月) 9:30~16:30	平成31年1月21日(月)
第5回	品質は工程内で造りこむ「工程内品質保証」の進め方	平成31年2月19日(火) 9:30~16:30	平成31年2月12日(火)

主催:岡山県、公益財団法人 岡山県産業振興財団

第1回 現場力向上による自社の競争力強化の進め方

日時 平成30年10月17日(水)9:30~16:30

会場 テクノサポート岡山 研修室

対象 製造部門の役員・工場長・その候補者、製造・生産技術・品質管理・生産管理の部課長級の方

定員 30名

参加費 3,000円(税抜き)／名

研修のねらい

自社の製造部門・工場の現状把握を行い、運営管理の基本要素事項や自社事業・製品の競争力を認識し、強い競争力を有する強固な組織体制へのレベルアップを図ります。

概要

自動車部品業界にて永年経営者として陣頭指揮を取ってきた講師と膝を交え、参加者自身が日頃ぶつかっている課題や将来の展望を含めディスカッション・懇談をメインに進行していきます。

カリキュラム

- はじめに
 - これからの自動車部品メーカーの進むべき道
- 製造幹部として、「自社の競争力」を考える。
 - 製造幹部として、立ち位置を明確にする
 - 自社製品(商品)の国際・国内競争力は?世界・日本国内での立ち位置は?
 - 今後も、自社・自社事業・自社商品は継続していけるのか?
 - グローバルな視点と発想
- 製造幹部として、「工場の役割」を考える。
 - 企業の改革は現場から
 - 製造幹部としての戦略思考
- 環境変化を勝ちきる製造幹部としての心得とは。
 - 原理原則を学び、考え、実践する
 - 組織の「部分最適」から「全体最適」の視点へ
- ディスカッション・経営懇談

第2回 製造業に携わる管理者のための「原価意識向上」の進め方

日時 平成30年11月7日(水)9:30~16:30

会場 テクノサポート岡山 研修室

対象 製造業にお勤めの管理者・監督者の方

定員 30名

参加費 3,000円(税抜き)／名

研修のねらい

日常のものづくり活動や管理・改善活動が、自社の販売活動や経営にどのような貢献をしているのか。そのメカニズムを理解すること、さらには参加者が自社での原価低減活動に貢献することをねらいとしています。

概要

ムダのない製造現場の実現は、ものづくり企業にとって永遠のテーマです。原価を“決算書の視点”“ものづくり現場の視点”“見積りの視点”で理解し、日々の改善活動の重要性を学びます。

カリキュラム

- そもそも意識があるとはどういうこと?
 - 意識・無意識とは
 - 管理者の意識と部下の意識は違っているのか
- 経営的な視点からの“管理”“改善”とは
 - 立場によって考えることが違うのか
 - 管理者の視点と担当者の視点とは
 - 経営者の視点を考える
- 基本的な原価の構造を理解する
 - 原価を理解する
 - 原価を理解すると何が見えるのか
 - 原価改善すると何が嬉しいのか(メリット)
 - 各部門視点での原価企画(開発・設計・製造・営業)
 - 製品がお金に換わる営業視点からの見積り
- 決算書視点からの原価を考える
 - より良いものづくりをしている製造業の損益計算書
 - より良いものづくりをしている製造業の貸借対照表
 - 優良企業のキャッシュフロー計算書
- ものづくり現場からの視点で原価を考える
 - ものづくり現場からのアプローチ
 - ・ 製造業における原価構成の紹介
 - ・ 業種別原価構成の特徴
 - ・ さまざまな生産方式と原価の特徴
 - ・ 見積りと原価
- 改善の切り口としての原価

第3回 製品原価を低減する簡易自動化の進め方

日時 平成30年12月17日(月)9:30~16:30

会場 テクノサポート岡山 研修室

対象 生産技術、製造技術に関わる中堅社員:係長、課長、部長クラスの方

定員 30名

参加費 3,000円(税抜き)／名

研修のねらい

各自動車メーカーの思想や考え方を学ぶとともに、総合的品質マネジメントによる原価低減に効果的な簡易自動化の進め方を習得します。講義やグループワークを通じて、自社の強み/弱みとギャップを認識します。研修での“気付き”をHotな内に自社への提案としてまとめ上げます。

概要

購入し使っていただくお客様に喜ばれる製品・商品を高品質/低コストで提供する為の考え方や方策を学び、改善活動に結び付ける動機付けをします。

カリキュラム

- 前段【グループワーク】:担当機能や自社の強み/弱みの紹介等
 - お客様第一と自工程完結の理解と再認識
 - 仕事の基本を理解し実行する
 - 生産技術の機能・役割を理解する

- 【グループワーク】:自社・自職場の実態を見つめ直してみる
- 2.自動化を進める為の必要条件とは
 - 簡易自動化を進める為に必要な知識・能力
 - ・ 自動化と自動化の違い
 - ・ 設計品質(狙いの品質)と製造品質(出来栄の品質)を理解する
 - 自動化を成功させ、投資効果を最大化する手法
 - ・ 自動化必要性の検証法
 - ・ 製品価値と売価・原価・利益を整合させる【グループワーク】:研修内容や他社実態と自社のギャップを認識する
 - 3.簡易自動化を進めるポイント
 - TQMの思想を取り入れた簡易自動化
 - ・ 絶え間のない改善
 - ・ 工程造りの基本
 - ・ 開発/生産準備マネジメント
 - 管理の自動化
 - ・ 品質確認作業の自動化
 - ・ 見える化と素早い処置
 - 原価低減に効果的な簡易自動化の進め方
 - ・ 価値分析からアプローチ
 - ・ 7つのムダとその改善着眼点
 - ・ 排除したい3K作業と気遣い作業
 - ・ Slim/Smart/Simpleな自動化で価値ある工程造り
 - ・ 設計・生産技術・製造機能の三位一体活動
 - ・ 事例紹介【グループワーク】まとめ

第4回 購買・外注管理実務の進め方

日時 平成31年1月28日(月)9:30~16:30

会場 テクノサポート岡山 研修室

対象 資材・購買・外注・調達部門の管理者

定員 30名

参加費 3,000円(税抜き)／名

研修のねらい

- 前提条件の理解
最新・最良の市場ニーズに応える調達・購買部門構築に必要な市場環境
- あるべき調達・購買部門の構築方法の理解
顧客ニーズに応える調達・購買部門のアウトプットの設定と実現方法
- 調達・購買実務マネジメントの理解
調達・購買部門の機能と新たなニーズを踏まえたマネジメントのあり方

概要

役割と責務・発注先の管理及び納期確保の技術・社会的責任と購買取引・購入価格の決め方・情報の集め方とポイント

カリキュラム

- 1.調達・購買部門の新たな役割とまっとうする責務
 - 最新市場トレンドから読み解く調達・購買のあるべき姿
 - 調達・購買に欠かせない真の「働き方改革」
- 2.サプライヤーマネジメント実践方法
 - 発注先管理
 - 納期確保の技術
- 3.社会的責任と購買取引
 - 「持続可能な調達」とは何か
 - 「持続可能な調達」のまつわる顧客ニーズの実現
- 4.購入価格の決め方
 - 原材料価格変動時代の購入価格の決め方
 - コストテーブル作成・活用の基本
- 5.情報の集め方とポイント
 - 「情報力」強化
 - できるだけ手間をかけない情報管理方法
 - マネジメントサイクルと情報管理サイクルの同期化

申込締切日：各回開催日の一週間前

FAX 番号：086-286-9676

自動車関連企業工場管理人材等育成研修 参加申込書

平成 年 月 日

(公財)岡山県産業振興財団 三谷・小倉 行

企業・団体名						
参加者	役職	氏名				
	役職	氏名				
所在地	〒					
連絡先	TEL:	FAX:				
	E-mail:					
業種	① 鋳造・鍛造 ② プレス・板金 ③ 溶接・製缶 ④ 切削・研削 ⑤ 樹脂成形 ⑥ 複合材加工 ⑦ 塗装・表面処理 ⑧ 熱処理 ⑨ 金型・治工具 ⑩ 電気・電子機器 ⑪ 設計 ⑫ 金属形成 ⑬ 工具 ⑭ ゴム ⑮ 試験・検査 ⑯ 機械要素 ⑰ 運送 ⑱ サービス業 ⑲ その他() ※いずれかに○を付けてください。複数選択可。					
主要製品 (自動車関連)						
課題等						
参加有無 (○をつけてください)	全てに参加	第1回(10/17)	第2回(11/7)	第3回(12/17)	第4回(1/28)	第5回(2/19)

※FAXまたはメールにて下記申込先までお申込みください。

※参加申込書にご記入いただいた情報は、事業運営上必要な範囲内で、適切に使用させていただきます。

お申込み



〒701-1221 岡山市北区芳賀 5301

ものづくり支援部 研究開発支援課 三谷・小倉

TEL:086-286-9651 FAX:086-286-9676

MAIL:sangaku@optic.or.jp